

10-7 自分で動かないと周りの状況は変わらない

～未知の海外でチーフエンジニアとして業務を遂行～

1. 立場と仕事

入社以来、初めての海外経験で、施工者チーフエンジニアとして施工計画作成と資材手配、施工管理（エンジニア・スーパーバイザーの指導）を担当した。

2. 遭遇した事態

国内地下鉄の開削工事にて監理技術者として従事した経験から、シンガポールにおける地下鉄工事のチーフエンジニアを任された。会社としては、シンガポールでの施工実績があったものの、赴任したメンバーは国際経験の少ない者もあり、まったくの未知に近い境遇で海外における業務を遂行する必要があった。

例えば、組織ひとつとっても、日本の工事長、工事主任、職長は、マネージャー、エンジニア、スーパーバイザー等の違いがあった。また、日本に比べて徹底した契約社会であり、膨大な英語でのクレームのレター等の文書のやりとりがある。ワーカーの安全、品質に対する意識は総じて低い、言語はマレー語が多く、コミュニケーションがうまく取れない。また、資機材に関しても、国内では電話一本で調達できる SMW のモルタルですら、現地では手配困難であったりした。

このように、組織・業務スタイル・言語・資材手配等が違う環境で、これまで培った経験や人脈も役に立たない中、チーフエンジニアとしての職責を期待され、日本同様に現場の Q C D S を確保しなければならなかった。

3. 対応内容とその結果

そこでまず、エンジニア、ローカルスタッフとの意思疎通を図るため、業務中のコミュニケーションに加えて、夕食等を一緒に取る機会を増やした。その結果、業務だけでは伝えきれなかった自分の考えが浸透するようになった。安全・品質に関しても、作業所の勉強会を開催し、まず日本人技術者が英語で説明し、通訳がマレー語で再度説明することにより、ワーカーへの周知を図った。SMW のモルタル調達についても、海外支店や海外経験者から情報を入手し、現地プラントを設置することによって解決した。

最終的には、自分の担当する業務（施工計画・資機材の手配）を何とか遂行することができ、日本同様に現場の Q C D S を確保することができた。

未知の境遇においては、自分で何かを始め、自分で動かないと周りの状況は変わらない。この経験を通じて、「何事にもチャレンジする精神」が身についたと思う。業務上、様々な場面に対峙することがあり、その中には自分に経験値のない事象もある。そういった場面においては、自ら考えて実践しなければ事態は変化しない。未知の海外での業務を通じて得た「何事にもチャレンジする精神」を心がけて、その後の業務に活かしている。